デザイナーのための経済コラム（９）

SDG s と新しい経済活動

「資本主義自由経済」と「社会主義計画経済」との対立構造はもはや死語になったと言えます。アメリカの民主党と共和党の対立構造も陳腐で、時代遅れになったようにも思えます。ＥＣからのイギリス脱退劇はイギリスの現政権の手垢まみれのポピュリズム志向に陥っているように見えます。中国が経済的に急成長できたのは鄧小平の「先富後従」政策とアメリカ、日本、ドイツなど先進工業国のグローバル経済政策とが一致したからと言えます。しかしながら、現在は中国の経済成長に貢献した先進工業国との間に齟齬が生じ始めています。

ピーター・ドラッカーは「自由主義経済」と「全体主義」とは相容れない、共存出来ないと何度も説いています。「自由主義経済」の根底には人間の尊厳を認めるという前提があると考えていたからと思います。ピーター・ドラッカが若い時代に経験したナチジズムの横暴を見てきたからだと思います。全体主義の思想が自然の大きな法則・原理に逆らっているように思えます。一人の人間を一生だまし続けることはできるでしょう。大勢の人間を一瞬だますこともできるでしょう。でも、大勢の人間を永遠にだまし続けることは無理です。科学的な思考では、数学の定理を覆すことは無理です。無理が通れば道理が引っ込む。数学の体系が崩れて、数学が存在出来なくなります。科学の世界では、仮説を立てて、論理を進めますが、仮説はいつか新しい仮説に取って代わられることを前提にしています。

自由主義経済の世界では、これまで通用していた経済理論、経済ルールではこの先の
世界は破綻してしまうということに気付き始めてきました。始まりは１９７５年にローマクラブが「成長の限界」という研究を発表したことにあります。その後、ダボス会議（国際経済フォーラム）、サミット会議、ＣＯＰ（国際気候変動枠組条約）会議へと続き、国連が提唱するＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）へと継承されています。

全体主義の国に限らず、すべての国家がＳＤＧｓにどのように真摯に取り組んでいるかがこれからの国際政治、国際経済の評価規準になります。また、国家だけでなく、すべての組織、個人についてもいえることです。詳しくは下記のＵＲＬにアクセスして見てください。

https://ja.wikipedia.org/wiki/成長の限界
https://ja.wikipedia.org/wiki/世界経済フォーラム
https://ja.wikipedia.org/wiki/気候変動枠組条約
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）

１．貧困解消、２．飢餓解消、３．保健促進、４．教育普及、５．ジェンダー平等、６．安全な水
７．ｸﾘｰﾝｴﾈﾙｷﾞｰの普及、８．経済成長・雇用の安定、９．ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ、１０．不平等解消
１１．都市の安全、１２．生産・消費の安定、１３．気候変動対応、１４．海洋資源の保護
１５．陸上資源の保護、１６．平和と公正の追求、１７．絆の創造

この１７項目は 21 世紀のユートピアかも知れませんが、着実に進んでいます。

（T,K.記）